

あかね



令和4年6月10日(金)発行
薩摩川内市立川内北中学校
自主 友愛 奉仕 鍛錬
文責：校長 感王寺 等

燃えた地区総体

今週7日(火)、8日(水)の両日、地区中体連総体が実施され、各競技会場で熱戦が繰り広げられました。

県総体への出場権をかけた本大会は、3年生にとっては最後の大会です。それ故、負ければ終わりの緊張感もあったことでしょう。必死にプレーする選手、それを応援する後輩や保護者。燃える北中の姿がありました。残念ながらあと一步のところ、全競技県大会出場とはなりませんでしたが、3年間の思いをぶつけることはできたものと思います。全てを出し切れた選手、悔しさの残るチームと、今の心境は様々でしょうが、部活動をやり抜いた事実には差はありません。本大会で部活動を引退する3年生は思いを後輩に託し、自分の進路に向け気持ちを切り替えましょう。また、県総体へ駒を進めたチームや選手は、部活動が1ヶ月伸びました。今大会の結果をもとに課題を明確にし、鍛錬を重ねてください。県総体を逃した同級生や他校の思いも胸に、1日1日を大事にし、より高みを目指して成長してほしいものです。



【地区総体の結果】



○ 団体の部

優勝 女子卓球

準優勝 野球

男子バレー

女子バレー

男子バスケ

女子バスケ

男子卓球

ソフトボール

剣道男子

男子庭球

3位 柔道

サッカー

女子庭球

4位 剣道女子

○ 個人の部

女子卓球

優勝 北山 愛美

準優勝 梅木 優花

3位 永谷 心麗

8位 牛之濱あい

新川梨々亜 内田杏

16位 加治木華音

田島優衣 福丸祭

男子卓球

3位 児玉 賢祐

6位 山下 琥永

柔道

優勝 岩下 優心

2位 坂口龍之介

大石田 鉄心

岩下 鋼心

剣道男子

優勝 今村 亜蓮

準優勝 山口 怜弥

男子庭球

優勝

小田原・古川ペア

3位

児玉・川路ペア

6位

小田原・江口ペア

※ 団体2位までと3位の柔道、記載された個人戦の入賞者は7月22日(金)～29日(金)に開催される県総体へ出場します。



前日の晩に準備し、忘れ物0に挑戦する。

教育実習を終えて

卒業生2名の教育実習が終わります。3週間の実習を終えるにあたり、後輩たちへのメッセージをお願いしました。目標に向け努力する姿から、生徒の皆さんも学ぶこともあったのではないかと思います。



実習の先生方と過ごした3週間で中学校のよき思い出として刻み、合唱コンクールに向け頑張りましょう。

初日は長いなあと思いましたが、日を追うに連れて、後これだけしか生徒や先生方と一緒に勉強できないのかと思うと、とても離れがたくなりました。どの学年も素直で元気な生徒が多く、私に対して興味津々に質問してくれたり、昼休み校庭で遊んでくれたりして、北中に帰って来てよかったと思える教育実習でした。母校が川内北中でよかったと、誇りに思えます。

「授業が分かりやすかった。」「早く本当の先生になってね」という言葉に、涙が出そうなくらい嬉しかったです。これから、たくさんの行事があると思いますが、全部楽しんでほしいです。まずは合唱コンクール、素敵な歌声を届けてください。3週間お世話になりました。

鹿児島純心女子大学(英) 森 なつみ

3週間の実習と聞き、とても長いと感じていましたが、実習が始まるとあっという間に最終日まで来てしまいました。どの学年、クラスの生徒も明るくあいさつしてくれて、気さくに話しかけてくれたため、とても楽しく実習することができました。実習前は不安しかありませんでしたが、生徒の皆さんと過ごすうちにとても楽しく、実習が終わることが悲しく感じられます。合唱コンクールに向けて、どのクラスも頑張っていると思いますが、どの学級も素晴らしい歌声が聞こえてくるので、自信を持って発表してほしいと思います。最後に、一番関わりの多かった3年生。地区総体で終わった人や県総体に行く人もいますが、受験に向けて一步步頑張ってください。みんななら大丈夫！3週間あっという間でした。ありがとうございました。

鹿児島国際大学(社) 山口 凧

時間が許せば、体育大会などみんなの成長した姿を見に来ていただければ嬉しいです。

地域の見守りに感謝

帰り道、優しい声かけに感謝

3年 柳澤 愛奈

下校中、私は一人うつむいていた。コンクールに応募するポスター作品の校内提出期限が守れなかったため、先生に迷惑を掛けてしまったのだ。ため息をついたそのとき、突然声を掛けられた。

「この珍しいクローバーあげる。」
知らない年配の女性だ。心臓がドキッと跳ねた。内心焦りながらお礼を言い、クローバーを受け取った。

すると、その人はヒマワリのような笑顔になった。励まそうとわざわざ声を掛けてくださったのだろう。思わず私もつられて笑顔になった。

全然知らない人だったが、同じ町に住んでいるというそれだけで、こんなに優しく接してくれる。なんとうれしいことだろう。

きっといつも登下校時の私たちのことを気に掛けて、見守ってくれているに違いない。私たちが優しく包み込んでくれる地域の方々に感謝した。その思いやりや優しさに応えられるように、顔を上げ、前を向いて歩いていきたいと思った。

5月31日 南日本新聞「若い目」



地域の方々の温かい見守りの中、子どもたちは素直に伸びます。優しい声かけに感謝しつつ、正しい行動のできる子どもたちでありたいと願います。地域に愛される北中生として！

梅雨時前のお願い

先週、市教育委に抗議の電話がありました。内容は、「雨の日、北中周辺では出迎えの車が多く迷惑している。なんとかならないのか。市教委は学校を指導できないのか。」ということです。

昨年度から注意喚起の文書を配布したり、学校だよりを通じてお願いしたりしてきましたが、なかなか改善が見られません。雨天の登校時に学校周辺で見られる送迎車両は、多いときで20~30台程度です。P戸数で割れば4%程度。割合で考えれば少ない数字ですが、近隣住民の方には北中全体が迷惑を掛けていることとなります。お子様が心配であったり、塾の都合があったり、ご都合は様々でしょうが、迷惑を掛けて構わないことにはならないと思います。どうしても送迎しなければならないのなら、学校周辺を避けていただき、地域の方々に配慮されますようお願いいたします。地域への気遣いの行動を、子供も見学育ちます。地域の中で生きる一人としての自覚を育てるためにも、ぜひ、再考ください。



期末テストまであと 10 日。よ〜いドン！